**平成29年度第３回鎌倉市健康づくり計画推進委員会**

日時：平成30年３月26日（月）午後７時～９時

場所：鎌倉市役所　第二委員会室

出席者：委員15人、幹事６人、事務局８人

欠席者：０人

傍聴者：なし

**■開会**

委員15人のうち本日全員出席で過半数超えのため、本推進委員会条例施行規則第3条第2項の規定により、委員会は成立している旨説明があった。

　傍聴希望者はなし。

委員会の議事進行は、施行規則第２条第２項により、委員長が行うことになっているが、本日は新委員に代わって第１回目であり、委員長が選出されるまでの間、事務局で委員会を進行する。

また、委員の委嘱辞令について、任期は平成30年３月10日から平成33年３月９日までの３年間の期間となる旨を説明。

　委員名簿順に沿って、それぞれ自己紹介をした。

【名簿順】

　　１　石渡　康裕（いしわた　やすひろ）委員

　　２　伊藤　光枝（いとう　みつえ）委員

　　３　井上　道雄（いのうえ　みちお）委員

　　４　国広　敬明（くにひろ　ゆきはる）委員

　　５　猿田　貴美子（さるた　きみこ）委員

　　６　髙井　久雄（たかい　ひさお）委員

　　７　寺杣　智子（てらそま　ともこ）委員

　　８　畠中　早苗（はたなか　さなえ）委員

　　９　深澤　健二（ふかさわ　けんじ）委員

　　10　三島　久司（みしま　ひさし）委員

　　11　森本　壽子（もりもと　としこ）委員　代理　高麗　宏子（たかま　ひろこ）様

　　12　百衣　啓至（ももい　ひろゆき）委員

　　13　山口　薫（やまぐち　かおる）委員

　　14　湯浅　章平（ゆあさ　しょうへい）委員

　　15　渡辺　哲（わたなべ　てつ）委員

続いて、事務局より配付資料について説明。

次に、委員長及び副委員長の選出。

施行規則第２条第１項の規定により、渡辺委員に委員長を、深澤委員に副委員長を継続していただきたいたいと井上委員及び湯浅委員から、申し出があり、他委員からも異議なし、両委員とも就任を承諾した。

**■議事**

事務局から、配付資料の確認。

（資料確認）

・【資料１】健康づくり通信

・式次第

・委員名簿

・幹事会名簿

・座席表

・【資料２】前期重点目標　子ども期「食生活・栄養」実施計画

前期重点目標　青年期・壮年期・高年期「身体活動・運動」実施計画

・【資料３】かながわ健康プラン21平成29年度取組み予定

・【資料４】ウォーキングマップ｢家族で歩こう！健康かまくらマップ｣の作成

・【資料５】健康づくり計画イベントの実施

・【参考資料】かまくらヘルシーポイントチラシ

未病センターかまくらチラシ

家族で歩こう！健康かまくらマップ 大船地区・腰越地区

鎌倉市健康づくりキャラクターささりん缶バッチ

以上

本日の委員会の内容、議題について説明。

議題(1)　これまでの経緯について

計画策定までの経緯と、策定後から今年度までの取組みについて説明する。

議題(2)　今年度の主な取組みについて

平成29年度に行った事業について報告する。

議題(3)　来年度の取組みに向けて

来年度の取組みに向けて、推進方法や内容について議論していきたいと考えている。

**議題１　これまでの経緯について**

**事務局からの説明**

議題（１）これまでの経緯について説明する。

本委員会は平成26年11月から始まり、４年目を迎えた。前任の委員の方は平成26年11月から３年間、計画の策定及び推進にご協力をいただいた。今回委員を委嘱させていただいた皆様は２期目にあたる。

まず、計画策定までの経緯を説明。計画を策定するにあたり、市民への意識調査を実施し、それらの結果を基礎データとした上で８回の委員会を経て、「鎌倉市健康づくり計画」をまとめた。

「鎌倉市健康づくり計画」の４ページ参照。本計画は、国が策定している「健康日本21」、神奈川県が策定している「かながわ健康プラン21」及び、鎌倉市が策定している「第３次鎌倉市総合計画」を上位計画とし、本市の各分野との連携も不可欠なことから、関係のある個別計画を挙げている。

　６ページを参照。この計画は、平成28年度から37年度（西暦2025年度）までの10年を計画期間としている。平成32年度（西暦2020年度）に計画の中間評価を行なう。

25ページの「基本理念・基本目標」を参照。計画の基本理念を「健やかで心豊かに暮らせるまち」とし、基本目標を「一人ひとりの自立（自律）した生活と地域全体の健康づくり」としている。

26ページを参照。健康づくりの分野を「健康管理」「食生活・栄養」「身体活動・運動」等の７つ、ライフステージを０歳から12歳の「子どもⅠ期」から61歳以降の「高年期」までの５つとした。各分野、各ライフステージでの現状、課題、そして、これらに対する取組み提案や、伝えたい情報等を第３章にまとめた。健康づくりには、生活習慣もライフステージも相互に関連しており、切れ目のない取り組みが必要だと考えている。その、切れ目のない、生涯にわたった健康づくりの指針となるよう、工夫した点を説明。

目次の次のページ、「本書の読み方」を参照。この計画書を手にした人が、どこから読みたいかを考え、「生涯の健康づくり」や「家族皆の健康づくり」を考えたい方には、

７つの『分野別』を入り口として、また、まず自分のライフステージの部分を見たい方には、『ライフステージ別』を入り口として見られるよう、第３章を二部構成としている。

121～124ページを参照。それぞれの項目に指標を設け、目標値を設定している。平成32年度の中間評価や、平成37年度の最終年度にはこれらの評価項目一覧にそって評価をする。

125～129ページを参照。平成27年度に本市で行った事業である。これらの取組みの進捗状況は、毎年５月ごろに、【資料３】のような形で取りまとめている。

【資料２】を参照。本計画は10年計画であるため、長期的・中期的・短期的な実施計画を策定し、それに基づいて計画の進行管理を行うことができるよう、重点目標について実施計画を作成している。こちらは、健康づくり計画の計画期間10年間に対し、実施計画の位置づけを示したものである。実施計画の構成は、①長期計画（10年間）、②中期計画（３年間）、③短期計画（１年間）の３段構成となっている。毎年度、どのような取組みを行っていくのか、こちらの表を確認しながら話合いを進めている。

この委員会では、主に計画の策定や見直し、推進のための取組み方法の検討を行っていただいている。健康づくりは、市はもちろんだが、皆様が所属されている各団体においても、共通の課題かと思われる。この委員会の中で、取組みの方向性を随時確認し共有すると共に、行政や団体がお互いに連携を図ることで、健康づくりに取組みやすくしていきたいと考えている。

**委員長**これまでの経緯というところで、何かご意見はあるか。確かにこの計画書を作る時、いろいろと議論があって、もっとわかりやすくということで、いろいろ直したところもあるが、最終的には121ページにあったように、健康寿命を延ばすというのが最終目標である。それを達成するために、先ほど説明があったようにいろいろ各項目があって、それぞれ目標を作って、これを達成していけば、最終的には健康寿命が延びるであろうという構成になっている。そのために年代ごとの目標も作っているという構成になっている。意見がないようであれば、気付いた時に意見を述べて欲しい。

**議題２　今年度の主な取組みについて**

**事務局からの説明**

議題（２）今年度の主な取組みについて説明。

【資料３】かながわ健康プラン21平成29年度取組み予定を参照。こちらは市で行っている健康づくりに関する取組み事業の一覧である。今年度取組み予定の事業として課ごとにまとめて、どんな事業を行っているのかイメージしやすくした。今年度実施した事業の中から、いくつかをご紹介する。

市民健康課では主に健康づくり通信の発行、ウォーキングマップの発行、健康づくりフェスタを開催を行った。

はじめに、「健康づくり通信」について【資料１】を参照。

まず、紙面に登場している鎌倉市健康づくりキャラクターささりんについてである。計画策定と同時に、キャラクターを作成した。健康づくりに関するものに、ささりんを使用し、一目で｢健康｣のことであるとわかるような工夫をし**て**いる。

健康づくり通信は、市民の方への健康づくりに関する情報の発信、健康づくり計画の周知を目的とし、平成27年６月から発行を開始し、現在、第８号まで発行している。今年度は３回発行し、６月に「お口の健康特集」、９月に「市民の方の取組み特集」、３月に「今年度の取組み特集」の内容で作成し、医師会・歯科医師会・薬剤師会・幼稚園協会さん等にご協力いただきながら医療機関や教育機関等約500箇所に配布を依頼した。平成30年度は、２回発行する予定である。

内容については、委員会委員の皆さまにもご協力いただきたいと考えている。例としては、配布している健康づくり通信第７号の表面「委員からのメッセージ」のように、委員の方それぞれの立場から、健康づくりに関する情報を発信していただくような内容にしたいと思っている。

次に、「家族で歩こう！健康かまくらマップ」についてである。

資料４　ウォーキングマップ｢家族で歩こう！健康かまくらマップ｣の作成を参照。

こちらは、20歳以上の方の「身体活動・運動」分野を重点目標としていることを受けて、今まで運動する習慣がなかった方のきっかけづくりとなるウォーキングマップを作成した。

普段、仕事や子育てに追われて、自分の健康に目を向けることが難しい世代をターゲットに、休日に親子で歩いて、歩くことの楽しさや気持ち良さを感じていただけるようなウォーキングマップを目指した。

平成28年度は鎌倉・玉縄・深沢地区を作成、平成29年度は腰越・大船地区を作成した。作成においては、鎌倉歩け歩け協会に、一部ルートの検討をお願いした。こちらも市内各所に配布を依頼している。平成30年度は、追加で印刷をし、引き続き配布をしていきたいと考えている。

次に、「健康づくりフェスタ」についてである。

資料５　健康づくり計画イベントの実施を参照。

こちらのイベントは、健康づくり計画の周知、ウォーキングマップの活用や健康づくりの普及啓発を目的に実施している。平成28年度は、鎌倉海浜公園で実施した鎌人いち場に「ワークショップ」としてブースを出店、足指力測定・握力測定を行ったほか、「家族で歩こう！健康かまくらマップ」や、健康づくり計画概要版を配布した。また、会場を拠点に、１時間程度海岸沿いをウォーキングする「親子deおさんぽ」というイベントも同時実施。ただ単にウォーキングをするだけでなく、親子でできるストレッチを取り入れたり、海を眺めるスポットで休憩したりするなど、親子で楽しめる内容とした。

今年度も、前年度同様、10月に鎌倉海浜公園由比ガ浜地区で行われる鎌人いち場にブースを出店する予定だったが、悪天候により中止となった。そのため、ブースでの普及啓発と並行して実施する予定だった「親子deおさんぽ」のみ、11月４日（土）に延期して実施した。

内容は、午前と午後の計２回、「家族で歩こう！健康かまくらマップ」の玉縄地区の「フラワーセンターコース」と「ぐるっと歴史コース」のルートを親子で歩く内容にした。

対象は、３歳から小学生程度のお子さんと保護者とし、事前申込みのほか当日２組追加があり、計14組の参加となった。

外部講師によるウォーミングアップ、クールダウン、親子でコミュニケーションを取りながら楽しく行うストレッチを行ったほか、鎌倉歩け歩け協会の方にウォーキング中の見守りを依頼。参加者はほぼ全員が完歩し、保護者からは、「知らない道もあった」「楽しかった」などの声があがるとともに、他地区での実施を期待する声もあった。ウォーキングの終わりには、バルーンアート、健康づくり計画キャラクターささりんの缶バッジ、未病関連グッズを子ども向けに配布した。

今年度は、鎌人いち場でのブース出店は中止となったが、市民健康課で「健康づくり応援団」として市内小中学校祭や地域の団体等に入らせていただく際に、健康づくり計画概要版や「家族で歩こう！健康かまくらマップ」の配布などにより、計画の周知を行った。

平成30年度は、昨年度の鎌人いち場のように、不特定多数の人が参加するイベントに参加し、骨密度等の測定を行いながら、計画の周知を行っていきたいと考えている。

現在、庁内関係課のイベントとの連携として、スポーツ課で実施する親子で参加できる催しに入ることを予定しており、また、その他団体との連携として、鎌倉商工会議所が実行委員会を務める「鎌倉ビーチフェスタ」への参加を予定している。

また、これまで、委員が所属する団体とのコラボ事業も行ったので紹介する。

・三菱電機社内運動会に市民健康課で健康啓発のブースを設けた。

・かまくら歩け歩け協会にて、ウォーキングイベント実施時に、市で作成したルートを活用していただき、市職員によるウォーキングマップの啓発を行った。

・鎌倉保健福祉事務所さんと合同で市内にある県立高等学校の文化祭に啓発ブースを設けた。

・私立幼稚園協会に所属する幼稚園にて、保護者向けストレッチの実践の時間をいただいた。

継続が可能なものは来年度もお願いしたいと考えている。

次に参考資料｢かまくらヘルシーポイントのチラシ｣を参照。市民健康課での今年度新規事業について説明。こちらは３月15日から始まった事業である。20歳以上の市民の方を対象に、アプリや活動量計を使ってウォーキングをしたり、市の健診を受けたり、健康に関するイベントに参加することで、ポイントを付与する。ポイントに応じて景品に応募することができ、抽選であたる仕組みとなっている。

多くの方に参加をしていただくことで、運動習慣を身に付けたり、意識づけとなるきっかけづくりを目指しいる。

次に｢いってみよう！未病センターかまくら｣のパンフレットを参照。

１月22日から神奈川県の認証を受けた未病センターを開設した。｢未病｣とは、健康と病気の間をいったりきたりする状態のことを言う。未病センターでは、自分で気軽に健康測定をすることができ、結果に基づくアドバイスを保健師や栄養士から受けることが可能。また、未病や健康づくりに関する情報提供を行っている。

３月13日までに述べ769人、１日平均22名の方にご利用をいただいている。

利用者の年齢層は、20代30代は4.5％、40代50代は13.8％、60代70代は66.4％、80代以上は14.3％である。

今後は土日に出張型未病センターも積極的に行いながら、青壮年期の利用を増やしていきたいと考えている。委員の皆様からも出張のご要望があれば、お声がけいただければと思う。

新規の２事業については、３月15日号の広報かまくらの１、２面や、チラシ等で周知を行っており、併せてご報告する。

市民健康課からの説明は以上。

続けて、幹事課、高齢者いきいき課での新規事業を紹介する。

**幹事課、高齢者いきいき課からの新規事業説明**

「生涯現役促進地域連携事業」について説明。

資料３「平成29年度「かながわ健康プラン21（第２次）」推進に係る取組み予定」項目：その他、事業名等：生涯現役促進地域連携事業を参照。

知識、経験豊かな高齢者を活用して、地域課題の解決に取り組むとともに、高齢者には社会参加や生きがいづくりの機会を与えることを目的に、高齢者の就労を支援するもので、就労相談窓口の開設、就労啓発セミナーの実施などを行う。

これは、人生100歳時代を迎えたことにより、働く意欲のある高齢者を年齢に関係なく、いつまでも元気に働いていただこうという主旨の下に、厚生労働省が立ち上げた事業である。

この主旨に賛同し、鎌倉市や、関係団体としてシルバー人材センター、鎌倉商工会議所、市社協、観光協会、金融機関などが集まり、協議会を立ち上げた。同協議会が厚生労働省からこの事業を受託して実施している。受託期間は平成29年度から平成31年度までの３年間で、高齢者いきいき課は、その事務局を担っている。

具体的な活動としては、協議会が３名の事務局職員を採用し、その職員が市役所の中や、支所、市内スーパーマーケットなど、いろいろなところに出張相談窓口を設けて、この事業を周知し、高齢者の就労相談を受付ける。

まずは相談を受ける中で、働く条件や希望する職種などのデータを集めていく。そして職員が、鎌倉市内の企業に訪問し、高齢者雇用の意義を周知啓発し、就労希望している高齢者の紹介をし、仕事の聞き取りを行って、両者がマッチングした場合には、そちらを紹介し、就労に結びつけるというような活動である。

他にも企業を招いて、合同就職説明会や、スキルアップセミナーなども行っている。

平成29年度の実績としては、平成29年４月から平成30年１月末までの時点で、合計34名の高齢者の方の就労につながった。年齢層としては、資料３の表には55歳以上の市民と書いてあるが、だいたい55歳から75歳をターゲットに活動している。実際は65歳から75歳くらいまでの年齢層の方が多く仕事に就いている。最高齢では78歳で仕事に就いたという方もいる。

平成30年度については、同じような事業を継続していくとともに、今度は高齢者の起業といった、自ら事業を立ち上げる意欲のある方に対して、費用支援を行っていくということも予定している。

**委員長**　ただ今、説明した今年度の主な取組みに関して、ご質問、ご意見はあるか。

**委員**　高齢者の就労について、78歳の方は、どのような職種に就かれたのか。

**幹事課**勤務先の会社名は控えさせていただくが、有限会社で、内容は、自分の特技を活かした麻雀や将棋などのお相手や指導するというような職だと聞いている。

**委員**こういったことを広報に載せるなど、周知などはしているか。

**幹事課**市のホームページと、協議会は「高齢者生涯現役促進地域連携鎌倉協議会」という名称だが、通称「セカンドライフかまくら」となっており、ネット検索していただければ、そちらのホームページに繋がる。

あとは、チラシなども作成し、職員が街頭で配布するなどして周知に努めている。

**委員長**市民健康課の方から、いろいろなイベントという話があったが、継続して行っていくのか。１回では、あまり意味がない。

**事務局**昨年度までは、健康づくりフェスタというイベントは１回という予定で行ってきたが、数多く実施していきたいと思っている。１回のイベントで大規模に行うのではなく、小規模な形で回数を多くして参加者を増やしていきたいと思っている。

**委員長**例えば、イベントに参加された方が、その後このような運動とか、そのようなことを続けられる動機付けや、指導というのはされるのか。

**事務局**今のところ継続したものはなく、まずはきっかけ作りで楽しんでいただくというところまでである。

**委員**感想になってしまうが、１つ目は市民健康課や市役所の負担を考えていかないといけないと思う。逆に、これで効果があるとなれば、どんどん行った方が良いと思うが、これは効果があまり見られないというものは計画的に考えなければいけないと思った。

２つ目は、高齢者のために仕事を紹介するというのは、非常に良いと思うが、おそらく丁寧に行わないと、高齢者などはいろいろな病気にもなりやすいので、トラブルにならないように丁寧にフォローするという体制を作っていった方が良い。

仕事というのは、その人の健康に非常に大きなモチベーションになるので、ぜひ続けていただきたいと思うが、トラブルが起こって仕事の継続に支障が出ることは残念なことなので、丁寧に行っていただきたい。

**委員**「かまくらヘルシーポイント」というのは、今年３月15日にスタートしたということだが、今のところ、どのくらいの方が参加しているか。

**事務局**今のところ1,200人くらいの方が参加している。

**委員**　　どういった形で参加するのか。アプリでの参加か、活動量計で参加するのか。

**事務局**先日、委託している会社に確認したところ、20数名が活動量計で、その他ほとんどの方がアプリで参加されているという状況である。

**委員**年代的には、どれくらいの方が参加しているのか。

**事務局**年齢構成までは、まだ資料が届いていないが、基本的にアプリなので比較的高齢者よりは、その手前の世代の方が多いと思っている。

**委員**　　ポイントでもらえる商品というのは、市が協賛でいただいているのか、何かの予算でしているのか。

**事務局**協力はしていただいているが、協賛でいただいているのではなく、予算を確保して商品を用意しているという状況である。

**委員**　　予算は限りがあると思うが、上限はどのくらいに考えているか。

**事務局**　１つ１つではなく全体としては、商品は抽選制で、今のところ平成30年度の９月、３月と２回抽選をする予定で、１年間に今の想定で行くと、140万から150万円掛かると考えている。

また、いろいろな事業者と話している中で、今は景品を事業者からの提供ではない形で市の予算を取って行っているが、いろいろな形で提供していけるというお話もいただいているので、それについては、また仕組みの中で予算を使わない部分も出てくるのではないかと考えている。

**委員**　　抽選で何名くらい当選するのか。

**事務局**　それぞれ異なり、高額なものは数名で、値段が下がるにつれて少し多くなってくる。今の状態で行くと総勢300名と少しくらい。実際に1,200人くらいアプリをダウンロードしてもらっているが、実際に応募できるまでのポイントに達する人が、その内どれくらいいるか。最低500ポイントから応募できるように用意しているが、どれだけ歩いていただくか、健診を受けていただいて、ポイントを貯めていただくかで、当選確率がかなり変わってくると思う。

あまりにも当たらないと、きっかけ作りにもならないと思うので、できるだけなにかしらというのは考えているが、限りある予算の中なので、事業者に提供していただく部分が増えていくと、当選確率が上がると思う。

**委員**　　すばらしいことをしているのに、なかなかそれが周知できないというのは、もったいない。

広報は、市民としては目を通しやすいと思うので、先程の事業にしても何度か掲載していくのが良いと思う。

**事務局**　先程の報告の中でもありました３月15日号１面に、１回掲載させていただいた。委員の方がおっしゃっていただくように、梃入れでまたどこかで掲載したいと思う。

またイベントもあるので、告知の時に梃入れができるような体制で行きたいと思う。

**委員**　　未病センターの｢未病｣についてだが、どの世代を特に重点を置いているのかということと、やはり未病センターに来られるのは高齢の方か、健康に興味を持っていらっしゃる方が多いと思う。当然質問なども長くなると思うが労働力（マンパワー）的に、保健師など現状はどうなのか。１日20数人来て、対応としてどのようになるのか。

**事務局**　今、平均すると１日20名程度で、やはり最初は利用される方も多かったが、今は少し落ち着いてきている状況である。

利用される方は、先程の説明にもあったが、やはり60代、70代くらいの方が今のところ主となっている。こちらとしては、できればもう少し若い世代の方も、子連れの方もいらしていただければと思うが、まだそこがなかなかうまくいっていないと思っている。

また、労働力（マンパワー）についてだが、現在、常時１名保健師が、週に何回か管理栄養士が稼動し、未病センターで計測をした結果についての説明や生活改善のアドバイス等を行っている。あまり込み入ったことの相談になってしまうと、他の方の対応ができなくなるので、実際には、ご自身で機械を使っていただいて、また次回に繋げるようなお話をさせていただいている。

**委員**　　時間が平日の10時から15時となると、やはりなかなか若い世代や働き世代の方などは、利用しづらい時間だと思う。それについても今後考えていただきたい。

**委員**未病センターの出張希望があるという話だが、この出張希望というのは、測定の機械をお借りしたいという話をすると、その機械と市の方が、どこにでも来るということか。

**事務局**なるべく多方面に、色々な地域で行いたいと思っている。ただやはり、あまり少ないと効果がどうかと思う。ご希望をいただき、10～15名、できればイベント的に楽しんでいただき、また次に計測したいなと思ったら、未病センターに来ていただくようにできればと思っている。なるべく多方面に伺いたいという考えである。

**委員**　　この出張サービスというのも、平日の10時から15時になるのか。

**事務局**未病センターをオープンにしておくということで、平日10時から15時までは、機械を動かせない。そのため、土日か、そういったイベントの中で、ご利用いただく方が、こちらとしても希望しているところである。

**議題３　来年度の取組みについて**

**事務局からの説明**

次年度の取組みについて、実施計画に沿って、食生活・栄養分野、身体活動・運動分野に重点を置きつつ、全体的な推進を行う。これまでも計画の周知は行ってきたが、健康づくりにまだ意識の薄い層や、市が行う事業の対象年齢となりにくく、アプローチしにくい青年期・壮年期の方に、まず関心を持っていただけるよう、今後もさまざまな場所での啓発を考えている。

資料２「前期重点目標　子ども期「食生活・栄養」実施計画」参照。

資料２の平成29年度の取組みとして、市民の方には、朝食を食べるメリットを知っていただくこととしている。それに対して市としては、健康づくり計画の周知をしながら、それをお伝えしていくというところで、ツイッター、健康づくり通信等で情報発信を行うこととしている。各事業での周知、健康づくりイベントの開催、健康づくり通信の発行等を行っている状況である。

平成29年度は、イベントとして、鎌人いち場での計画の周知や、親子を対象とした取組みを主なイベントとして企画したが、やはり参加人数がなかなか集めることができなかった。来年度は市民健康課主催のイベントの規模を縮小し、その分こまめに地域に出かける回数を多くして、周知に努めていく。

そのため、一見健康づくりとは関係のないようなイベントにおいても、人が多く集まるところで、「ついでに」健康づくりの話を聞いていただき、健康づくり通信の配布や啓発イベントなどを行っていきたいと考えている。そして、健康に関心を向けていただき、生活の中で何か１つでも取り入れていいただくことが理想的であると考える。

こういったイベントに関して、ご希望があれば外部講師による体操等の実施も可能。

それぞれイベントの規模に合わせて調整させていただくので、お時間やブースを利用させていただけるイベントがあれば、是非お声かけをお願いする。

PRにおいては、かまくらヘルシーポイントの活用等も併せて呼びかけたいと思う。

また、青年期・壮年期に啓発をするためには、引き続き親子を対象としたイベント等の実施も検討していきたいと考えている。幼稚園や学童の年齢の親子との接点が少なく、ニーズの把握も難しさを感じており、連携できるイベントがあれば、是非お教えいただければと思う。

**委員**　　直接には関係ないが、数値目標について意見したい。もしアンケートでこのような数値が出ているのだとすれば、アンケートの対象者と、人数、何人中何人が回答してくれたなどを入れた方が良い。

平成37年度の目標値は、どのように決めているのか。

**事務局**まず現状値については、計画書５ページ参照。

この計画策定にあたり、実施した調査結果が載っている。現状値についてはアンケート結果からの数字となる。

**委員長**目標値というのは、ある程度、国の何かから持ってきているものではないのか。そういうものは参考にしていないのか。

**事務局**参考として使えるものがあれば、使っている。それがあまりにも鎌倉市の現状値とかけ離れていたり、国の数値より超えてしまっていたりする場合は、そのさらに上という形で、国の数値を使っている。

**委員**100％はなかなか難しいと思う。例えば、ハイリスクと思われる人達はおおよそわかっていると思う。そのような人達に、本当に健康づくりかということは別として、訪問をしたり、声を掛けるような機会を作ったり、民生委員の方をサポートするとか、活動数だけでも、かなり違ってくると思う。ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを両方やっていくスタンスも必要だと思うので、工夫をして、支障のない、負担感のない範囲内で行っていただくと良いと思う。

**委員**　　これを見るとやはり有効回答率というのが約半分くらい、無作為にアンケートを郵送している訳である。そうすると、これに答える方は当然、熱心な方が答える訳なので、この数字はかなりバイアスが掛かっていると思う。これをあまり鵜呑みにしない方がいい、少し差し引いて考えた方がいいと思う。

**委員長**　この最終的な目標値は、何かデータを用いるのか。

**事務局**最終の時にまた改定を３次４次と続けていくと思うので、その時には、またこのための調査を実施する予定。

**委員長**大抵アンケートを行うと、回答率50％というのが普通だから、回答率をこれ以上増やしてバイアスを下げるのはなかなか難しい。

**委員**本当は、無作為で行うのであれば、100％近いと非常にデータの質としては高まると思うが、無理だと思う。

**委員**郵送だと難しい。その場に行って答えてもらった方が良い。

**委員**この長期計画の中の「家族そろって一日に１回以上食事をする子どもの割合」というところが、やはり今の時代は働く方が多い中で、80％もあるのかなというのが正直なところと、それから、それに向けての取組みとしては、どのような見込みを持っているのか。

現状共働きの方が多い中で、小６ぐらいになると塾に通うお子さんが増えてくると思うが、何か目安になるものは持っているか。

**事務局**こちらに鎌倉市健康づくりについての意識調査があり、小６などの学童期のお子さんに対してのアンケートについては、お子さんにご協力をいただき、正答率については56.3％を得ている。確かに健康意識の高い方が多いのかなということと、このアンケートの数字を受け止めるのなら、鎌倉というのは、わりと家族そろって食事をするというのが多い、他の県内の比較したデータから比べると、やはり良かったのは事実である。

ただ、それぞれ共働きになって、夜にそろうのはなかなか難しい部分もあるので、できれば朝ごはんも、きちんと食べて欲しいというところで、出かける前に一口でも一緒に食べていけたら良いという働きかけはしていきたいと思っている。こちらとしても私どもにできることは啓発というところまでしか行えないので、その辺をいろいろなところと協力しなければいけないと考えている。

**委員**　　今年度は、着ぐるみのささりんを作らないのか。

**事務局**　一応原課としては希望を出しているが、来年度も予算計上はできなかった。

**委員**　　やはり、動く着ぐるみのささりんを作ると、鎌倉市は健康啓発で、ゆるキャラを作ったというインパクトは強いかなという思いはあるが、予算の関係もあると思う。引き続きよろしくお願いする。

**委員長**　他に質問はないか。もしないようであれば、今回、未病センターの見学ができるということで、こちらの委員会は、終了となる。

**事務局**　今後スケジュールについて説明をする。

今年度の委員会については今回で終了となる。

来年度は３回の委員会を予定している。初回の委員会は７月30日（月）で予定している。新年度になり確定したらお知らせする。

以上